

# 産直で初の子ども食堂 皆で食べておいしいね

三重・JA伊勢と伊勢市



ボランティアからカレーライスを受け取る児童

【三重・伊勢】JA伊勢と伊勢市は10月下旬、市内の産直施設「サンファームおばた」で、子ども食堂を初めて開いた。地域貢献が目的で、同店や同JA管内産農畜産物のPRも狙いとした。店舗の閉店後に実施し、管内の親子13組48人が参加した。

この日は、カレーライスやサラダ、規格外のイチゴ「かおり野」を活用したデザートを無償で提供した。カレーライスやサラダには、店舗で売れ残った商品も活用。持続可能な開発目標（SDGs）の実現につなげた。

調理や配膳は、同JAファンクラブみらいのグループ「フレッシュおばた」のメンバー

とボランティアの地域住民が中心となって担当した。

ミニイベントとして規格外ミカンの詰め放題を行い、参加者は土産として持ち帰った。

参加した児童は「温かいカレーを、みんなでおしゃべりしながら食べられるのが楽しい。苦手な野菜も小さく切ってあったので、おいしく食べられた」と話した。

同JAくらしの活動推進課は、参加者らの意見を取り入れ、提供する料理の内容や開催方法を検討し、定期的に子ども食堂を開く計画だ。

JAの担当者は「地域に貢献するとともに、産直施設を利用するきっかけとなるとよい」と話した。